

## 団長の独り言

10月16日(月)「平野恒雄とアリス」

ミュージシャンの谷村新司さんが亡くなられた。通称チンペイさん。

言わずと知れた(若い世代は知らない?)音楽グループ「アリス」のリーダー。

あれは私が高校1年生の5月、同級生の林君からフォークギターを貰ったのを機にギターを弾き始めた。

当時はフォークソングブームがまだ続いていて、「かぐや姫」、「井上陽水」、「風」、「イルカ」等がフォークギター少年にとってのお手本で、「平凡」だか「明星」だか忘れたけれど、週刊誌の付録の「ギターコード付き歌詞」を見ながら、「神田川」「赤ちょうちん」、「あの人の手紙」なんかを、一生懸命ギターで弾き語っていた。

その年の9月、アリスの「ジョニーの予守歌」が流れているのを聞いて虜になり、同時期にコマージュソングとして流れた、堀内孝雄のソロソング「君の瞳は1万ボルト」で、アリスってグループに興味を抱き、「冬の稲妻」「涙の誓い」というアリスのヒット曲も好きになり、フォークソングではない、ニューミュージックという新しいジャンルのアリスに心酔するようになり、友達から「栄光への脱出」という武道館ライブのレコードをテープに入れてもらい、チンペイさんのMCの会話の虜となってアリス病に侵されている最中の高校1年の年末、香里園の味見亭で蕎麦屋さんでバイト中、山のような器を洗い場

で洗っている時に有線放送から流れて来た「チャンピオン」のかっこよさに、完全にノックアウト!

「チャンピオン」が収録されたアリスVII(セブン)は、アリスのアルバムの中で私の一番のお気に入りとなった。

ギターコードを入手するや否や、「チャンピオン」「Wind Wind」野性の疾風」等を夢中になって練習した。

高校3年の文化祭のステージでは、「Wind Wind」野性の疾風」遠くで汽笛を聞きながら」を満石君と歌ったし、同級生の仲間達と企画をして、高校の卒業式を終えた1週間後に住道の音楽スタジオで開催した「グラジュレーションコンサート」でも、「Wind Wind」野性の疾風」、「遠くで汽笛を聞きながら」を満石君と熱唱した。

そして1981年3月、上京して役者という道に進み始め、3か月ほど経ったある日、給料を貯めたお金を握り締めてお茶の水の楽器店に向かい、憧れのモーリス製のフォークギターを買った。

アリスの2人はモーリスのギターを使用していたので、ずっと欲しかった。フォークギターにしては、まあまあなお値段で5万円くらいだった。色はチンペイさんがコンサートで使っていたのと同じような赤茶色のやつ。

別にバンド活動するわけじゃないのに、アリスの曲の弾き語りがあったって思っていたし、モーリスのギターって欲しかったので思い切った購入した。

そんなある日、「アリス解散」の情報が入り、ファイナルコンサートを行うとの事なので、「行くしかない!」と決意して、どうやってチケットを手に入れたのか忘れたけれど、ネット等がない時代なので、おそらく公衆電話に十円玉を積んで(3畳一間のアパートの部屋には電話なんてなかった...)チケット予約センターの繋がらない電話をひたすら掛けたと思うけど、8月31日に後楽園球場で行われたファイナルコンサートで、憧れのアリスと初めて会えた。

その後、ペーヤんは演歌歌手になり、チンペイさんは音楽家兼文化人になり、きんちゃん、六本木で飲食店を経営していたけれど、心の片隅には、ファイナルコンサートの際のチンペイさんが、「どこかまた会おうな。(関西弁)」と優しく語ってくれたその言葉をずっと忘れずに長い月日を過ごしていた。

その間、私も色々な人生を歩み、「劇団ふあんハウス」を軌道に乗せた頃くらいの2013年、アリスが復活して全国ツアーを行っているのを知り、無我夢中で武道館コンサートに行きましたよ。そのライブのMCの時、私はステージに向かって、「また会えたよ!約束守ってくれてありがとう!」って叫んだ。(心の中で)

そのアリスと出会う前の中学3年生の頃、私は訳あって一人で暮らす事となった。親父が一人暮らしは辛いだろう...と香里園のダイエーの屋上にあったベットのショップに置かれた「貰ってください」の段ボール箱の中

にいる数匹の子猫の中から、1匹の子猫を貰ってくれた。

猫との2人暮らしとなり、1年半が過ぎた頃、親父と暮らしていた3歳下の弟の雄二が戻ってきたので、雄二と猫と私の暮らしが始まった。

当時、中学生だった雄二のお弁当を作り、二人分の朝晩のごはんの支度もして、新聞配達もバイトも一緒にやった。

しかし、辛いなあ...とは思わずに、いつもアリスと猫に励まされ、曲がった世界にも流されず、「夢」しかないけれど、「夢」だけあった平野恒雄は、事ある事にアリスを聴いて前を向いて、「今にみとれよ!」と気合を入れた。

もし、もし高校生のあの時、私がアリスと出会わなければ、あの時代を乗り越える事が出来なかったかもしれない。

だからチンペイさんの訃報を聞いた時は、身体が震えた...。今夜、久々にギターを取りだし、アリス全集を畳に置いて、色々な曲を弾きながら小さな声で歌っていると、何故か涙があふれてきた。

その涙は、チンペイさんが亡くなった事の悲しさはもちろんの事だけど、十代のあの日のあの時、実は辛い事がたくさんあったのに、「辛いと思っはいけない」と頑張っていたあの時の感情が音楽と共に思い出されたから。ありきたりの言葉だけど、谷村新司さんの御冥福を心よりお祈りいたします。谷村新司さん、どうもありがとうございました。